

特別支援教育研究室

◇◇私たちの研究室が目指すこと

現在の社会で、さまざまな形で「生きづらさ」を抱えている子どもは少なくありません。子どもの声や要求(ニーズ)・願い・意見表明をしっかり受け止め、応答するおとなが、子どもの育ちにかかわるさまざまな場に存在することが、これまで以上に求められています。

子どもの育ちを支える場を学校や家庭に限定せず、地域社会や福祉と教育という点から広く捉える視点を重視します。子どもの内面に寄り添い、見守り、伴走しながら、親・家族(教師を含めたおとな)とともに育ち合う、そのような実践や場をフィールドとして大切にしていきます。そしてそのような場とのつながりを踏まえた教育実践を、学校教育の場で担える教員養成を目指します。

特別支援教育の範疇を医学モデルによる「障害」のみならず、子どもたちの「貧困」「虐待」「不登校」等といった多様なニーズを含むものと捉え、誰もが排除されない教育と地域、社会を構想するための学びを深めます。学生のみなさんとともに、研究室の学びを創り出していきたいと思えます。

◇◇特色ある活動・年間の活動スケジュール

私たちは「研究的な視点と実践的な問題意識の双方を大切に育てる」ことを目指して、年間の教育・研究活動を行っています。

- ・年2回の研究室合宿(5月、2月)の実施に加え、4年の卒論中間発表会(10月)、3年卒論中間発表会(11~12月)、2年生ゼミ発表など(11~12月)、学生が自身の課題意識を定期的に報告します。
- ・ゼミ活動の重視—1年生基礎ゼミ、2年生ゼミで、教育学の基礎的文献・現代的課題について学ぶとともに、調査・研究の基礎的な技法についても学んでいきます。また、3年前期から所属ゼミを決めます。
- ・多様なフィールド—特別支援学校、児童養護施設、不登校児のための施設、ひとり親家庭の学習支援など

◇◇担当教員紹介 ※氏名(ふりがな):専門分野:担当科目・専門の紹介、の順

阿部美穂子(あべ・みほこ):特別支援教育:肢体不自由児教育、肢体不自由児の心理・病理・生理などを担当。障害のあるお子さんとその家族のエンパワメントをテーマに、ムーブメント教育・療法を軸に、お子さんのソーシャルスキル及び、コミュニケーションスキル支援プログラム、子育てスキル支援プログラム、障害のある子どものきょうだい支援プログラムの開発に取り組んでいる。さらに、地域の臨床心理士とタイアップしながら、保育士の気になる子どもの保育効力感を高めるためのコンサルテーションシステムの構築にも取り組んでいる。

小淵隆司(おぶち・たかし):臨床発達心理学:障害児心理学、障害児心理アセスメント、教育相談の理論と方法などの授業を担当。20年間、臨床発達心理士として心理・発達相談に携わってきました。障害を持つ子どもも含め、児童・生徒を理解するためには、単に個としてのみならず、子どもの生活や発達との関連や指導・援助との関係でとらえることが大切です。環境や集団など広い見地から心理学を学びあひましよう。

木戸口正宏(きどぐち・まさひろ):生徒指導・進路指導:生徒指導・進路指導の理論と方法、教育相談の理論と方法、現代社会と教育、などを担当。格差・貧困の広がりの中で、様々な困難を抱えざるを得ない子どもたちの現実と向き合い、彼らが相互に支え合い、認め合える関係を、教室や学校、地域につくりだしていくことを支援するような生徒指導・進路指導について考えている。

戸田竜也(とだ・たつや):特別支援教育・教育福祉:特別ニーズ教育、知的障害児教育課程、病弱児教育等。最近の関心は、特別支援教育における授業づくり。スクールカウンセラーとして、通常学級の「気になる子ども」を包み込んだ授業づくり、集団づくりの支援にも取り組んでいる。また、広く特別なニーズ持つ子どもたち(例えば...被虐待、障害、貧困など)の育ちと支援について、地域・学校・家庭を結んで検討を試みている。